

# 立教女学院短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 立教女学院短期大学の概要

|       |                  |
|-------|------------------|
| 設置者   | 学校法人 立教女学院       |
| 理事長   | 酒向 登志郎           |
| 学 長   | 酒向 登志郎           |
| A L O | 安部 一郎            |
| 開設年月日 | 昭和42年4月1日        |
| 所在地   | 東京都杉並区久我山4-29-23 |

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

| 学科    | 専攻 | 入学定員 |
|-------|----|------|
| 英語科   |    | 150  |
| 幼児教育科 |    | 150  |
|       | 合計 | 300  |

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

| 専攻     | 入学定員   |
|--------|--------|
| 英語専攻   | 30     |
| 幼児教育専攻 | 80     |
|        | 合計 110 |

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

立教女学院短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年6月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

ミッション・スクールとしての建学の精神や教育目標などが確立し共通理解されやすい点をいかし、明確な教育目標の下に教育がなされている。

建学の精神に基づいたバランスよい教育課程を編成しており、各学科の教育目標も明確である。その一方で多様な学生のニーズに応えるための幅広い科目群も用意され、アドバイザー制による少人数教育によって個々の学生への対応も行き届いている。また、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会の活動も活発で、教育課程ならびに教育方法の見直しへの努力も払われている。

教員数は短期大学設置基準を充たし、各教員は授業以外に研究、学生指導、そのほか教育研究上の業務に意欲的に取り組んでいる。教員組織の整備状況は良好である。教育環境についても校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を充たし、各施設は効率的な授業や快適な学生生活のために適切に整備され、活用されている。図書館についても短期大学設置基準を充たし、施設の整備状況や利用者へのサービス体制も良好である。

創立130年の歴史と優れた教育実績を誇り、高い求人倍率、高い就職率を享受してきた。また、進学に関しても国内外に編入学提携大学の数や枠を増加させており、こうしたことが当該短期大学の自信と誇りへ繋がってきた。今後、卒業後評価への組織的、体系的取り組みを進め、さらなる教育改革・改善に努められることを期待している。

入学後のオリエンテーションにおいて学習および学生生活両面にわたる指導がきめ細かく行われると同時に、学習のバックアップ体制や英語教育センターなど学習環境の周知が図られている。また、少人数を対象とした専任教員のアドバイザーが個々の学生の学習および生活両面の相談に対応すると同時に、学生部委員会が問題の解決に当たっている。学生の心身両面にわたる健康管理についても毎年の健康診断を中心に充分配慮された体制が

確立されている。種々の就職活動支援講座が用意されると同時に、就職相談室を中心とした就職活動支援体制も整えられており、就職内定率は高水準を維持している。四年制大学への編入の窓口も広く確保されている。

全教員が各種の研究活動を何らかの形で展開している。紀要も毎年発行され、全体的に教員の研究活動状況は良好である。また研究活動の活性化のための各種の条件も適切に整備されている。

国際交流については、研修先がアメリカだけでなく平成16年度からはオーストラリア、フィリピンが加わり、派遣先や派遣人数の拡大が見て取れる。このことは短期大学が国際交流に積極的に取り組んでいる証左であると理解できる。

学校法人の管理運営については、理事長は理事会と教授会の信頼関係を損なうことなくリーダーシップを発揮し、理事会、評議員会および監事の職務は寄附行為の定めに基づき、それぞれの機能を適切に果している。また、短期大学の運営にあたっては、学長は適切なリーダーシップを発揮し、教授会、各委員会なども機能的に運営されている。事務部門では、各担当部課や教員との連絡を密にして学生に対応するとともに諸規程も整備され、各々の規程に基づき適切に運営されている。

財務に関しては、中・長期的な財務計画の策定が望まれるが、毎年度の事業計画、予算作成ならびに執行・管理は適切に行われており、決算報告、監事および公認会計士による監査、財務情報の公開も適正に行われている。短期大学の資金収支・消費収支についてはおおむね均衡を保ち、教育研究用の施設設備費や図書費なども適切に配分され、財務状況は健全に推移している。法人全体としての財務状態も、償還計画が確立されており財務体質は安定したものとなっている。また、施設設備の維持管理や危機管理対策および省エネ・省資源化についても、法人全体で取り組み、適切な対応がなされている。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

ミッション・スクールとしての大学の方針が明確に示されている。

評価領域 教育の内容

少人数教育による教育効果向上への努力がなされている。

評価領域 教育の実施体制

英語科では実践的な英語力の向上に資するため、多く外国人教員を配置している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

学生の要望や疑問に真摯に耳を傾けようとする姿勢やその体制が確立している。  
個々の学生に目を向けたアドバイザー制度と事務局各課の連携体制も充分機能している。

評価領域 学生支援

入学後オリエンテーション期間における少人数を対象としたアドバイザー・アワーや、個人学習の中心となる図書館オリエンテーションがクラスごとに実施される点などは評価できる。

少人数を対象としたアドバイザー制によって個々の学生の把握に努めると同時に、英語教育センターの業務の一環として正課外の講座を設けるなど、学生の学習支援に努めている。

評価領域 社会的活動

海外に複数の提携大学を擁している。

評価領域 財務

施設設備の維持管理や危機管理対策および省エネ・省資源化への対応がなされている。

## (2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

シラバスの様式を統一することで学生への授業内容の周知が徹底されるものと考えられる。また授業評価結果の教員間あるいは教員と学生間の共有はともにさらなる改善をしていく上で肝要なことと考えられるので、今後検討されたい。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

科目の内容やシラバスについて学生への周知徹底とその工夫が望まれる。  
履修者数が極端に少ない科目の見直し、あるいは学生に対する適切な履修指導が望まれる。

評価領域 管理運営

事務部門の業務量増加に対する事務処理の合理化や各種委員会の開催見直しを行うなど、就業環境の改善が望まれる。

評価領域 財務

財務状況は健全に推移しているが、中・長期的な財務計画の策定が望まれる。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価の継続的な実施体制を確立することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

| 評価領域 |                      | 評価結果 |
|------|----------------------|------|
| 評価領域 | 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 | 合    |
| 評価領域 | 教育の内容                | 合    |
| 評価領域 | 教育の実施体制              | 合    |
| 評価領域 | 教育目標の達成度と教育の効果       | 合    |
| 評価領域 | 学生支援                 | 合    |
| 評価領域 | 研究                   | 合    |
| 評価領域 | 社会的活動                | 合    |
| 評価領域 | 管理運営                 | 合    |
| 評価領域 | 財務                   | 合    |
| 評価領域 | 改革・改善                | 合    |

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は創立以来明確に樹立されていて、またその精神に則した全人的教育目標も確立している。2学科の間にやや教育理念に差異はあるものの、全体としてはそれがカリキュラムや各種教育活動の中にかかれている。具体的には、学校案内およびウェブサイト上においてキリスト教精神に基づく建学の精神が分かり易く示されている。また、各学科のアドミッションポリシーも明確に示されている。キリスト教関連の科目も多数開講されており、キリスト教精神を授業で学ぶ機会は多い。

教育目的・教育目標は具体的かつ詳細に示されていて特に問題点はない。「立教女学院ビジョン策定プロジェクト」で、建学の精神・教育理念の再解釈などの点検が行われている。点検の結果は、諮問グループ、評議委員会、教職員研修会などで検討された上で、教授会で周知徹底され、実施が計図られている。その結果、人文・社会・自然・言語・健康に関する科目がバランスよく配置されている。しかも領域ごとに細かく取得すべき単位数が決められており、偏った学習がなされることを防いでいる。

アセンブリー・アワー、「マーガレットキャンプ」、学院全学礼拝、創立記念礼拝、クリスマス礼拝、「国際交流キャンプ」「ボランティア・キャンプ」などの講話や行事で教育目標などの共通理解が図られている。

### 評価領域 教育の内容

キリスト教精神に基づく建学の精神・教育理念に一致した教育課程を編成しており、専門科目と教養科目のバランスならびに教養科目間のバランスも適切である。また、アド

バイザー制という少人数教育が導入されて教育効果を上げている。英語科ではF D委員会も頻繁に開催され、現状のチェックと将来への改善に取り組んでいる。幼児教育科では専攻科の定員増に伴った教育課程の見直しに努めている。

英語科ではT O E I C、T O E F Lの受験を通じた英語力の向上、幼児教育科では幼稚園教諭2種免許と社会福祉主事(任用資格)の取得が具体的な目標として設定されている。しかし教育課程においては資格取得などのために必要な科目だけではなく、学生個々のニーズに対応できるよう幅広い科目群が開講されている。

配布されるシラバスを通して各科目の授業内容や教育方法・評価方法が学生に対して明示されている。若干科目間でシラバスの書式や内容にばらつきはみられるが、履修登録前に授業を1回受講することができるため、学生にとって必要な情報は充分提供できている。

頻繁に学生による授業評価を実施し、その結果を授業改善に結びつけようとする努力がみられる。また、英語科ではF D委員会の活発な活動、幼児教育科では専攻科の定員増に伴うカリキュラムの見直し、クラス規模の見直しなど、常に現状を再検討しようとする姿勢がみられる。

#### 評価領域 教育の実施体制

両科とも短期大学設置基準による教員数の規定(教授数を含む)を充たしており、教員の年齢構成もおおむねバランスが取れている。教員の採用、昇任に関する審査基準も適切に整備されており、教員は短期大学にふさわしい資格と資質を有している。

校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を十分に充たし、各種の授業にふさわしい講義室、演習室など、またIT化に対応する各種教室を備え、広いラウンジをはじめ学生生活のための多様な施設も充実しており、教育環境の整備、活用は適切である。

図書館の蔵書数、設備などは適切に整備されており、年間の購入予算もこの規模の短期大学として充分であり、図書を選定、廃棄、検索などの各システムも適切に整備されている。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

学期ごとに授業評価アンケートを実施し、授業改善に努めている。評価に当たっては、共通テキストによる異なる担当者間での共通理解に心がけ、公平な評定に努め、評価に納得できない学生が教務課を通して質問をする機会を与えるなど組織的に取り組んでいる。退学や休学といった個々の学生の問題に対しては、教員が学生担当のアドバイザーとして学生・就職課や教務課と連携して相談に乗り、組織的に指導に当たっている。

英語科では進学者に関して国内進学委員会や国際交流センターで情報を得ている。就職



者については今後学生・就職課と協力し、卒業生と就職先にアンケート調査を実施することを検討している。幼児教育科では就職先の幼稚園での卒業生の評価を聞き取り調査している。今後は、英語科と足並みをそろえた形で調査を検討していく考えがある。

創立130年の歴史と優れた教育実績を誇り、高い求人倍率、高い就職率を享受してきた。また、進学に関しても国内外に編入学提携大学の数や枠を増加させており、こうしたことが当該短期大学の自信と誇りへ繋がり、今までは、改めて卒業生へのアンケート調査を行う必要性を感じてこなかった。それは、同窓会活動は開学以来活発で、機関紙の発行や卒業生の集いなど教職員との接触、連携は連綿として密であり、同窓生の協力が得やすく、卒業生からの情報も得やすい状況にあったためである。今後卒業後評価への組織的、体系的取組みを進め、さらなる教育改革・改善に努められることを期待している。

#### 評価領域 学生支援

入学後4～5日をかけてオリエンテーションが実施され、学習および学生生活両面にわたって適切に指導が行われている。学習のバックアップ体制も周知されており、図書館オリエンテーションをクラスごとに行うなど、きめこまかく学習環境の周知が図られている。また、少人数制によるアドバイザーアワーは個々の学生に対応しようとするもので、新入生の新しい環境への適応を促進するものである。

英語科ではアドバイザー制(学生30名に1人の教員)による指導および相談体制をとると同時に、英会話、TOEIC、TOEFL対策、編入学英語、初級文法など正課外の授業を英語教育センターにおいて無料で実施し、学習を支援している。幼児教育科では、学生20名を、卒業するまで、一人の専任教員が担当するアドバイザー制によって個々の学生の支援を行っている。

学生の自治組織である学友会を中心に学生生活の充実および学生間の親睦が図られており、スポーツ大会、学内献血会、パフォーマンス大会など各種行事が企画運営されている。また学生の健康管理については、毎年4月の健康診断や、常駐する看護師やカウンセラーによる心身両面にわたる相談体制、月1～2回の内科医・産婦人科医による健康相談など十分に配慮されたものである。

幼児教育科では幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事(任用資格)の取得を、英語科では企業に求められることの多いTOEICスコアの向上を学習の具体的な目標としている。就職活動支援体制が整えられ、就職内定率は高水準を維持している。また、四年制大学への編入についても、立教大学を中心に多くの大学から推薦枠を獲得して、3年次編入への門戸を広くしている。

現在のところ、障害者、長期履修生など特別な支援を必要とする学生が在学しておらず、そのための支援体制も整えられていない。しかし将来的には地域との連携を強める構想

を持っており、それに伴う社会人学生の入学およびその支援体制についても検討中である。

#### 評価領域 研究

全教員が各種の研究活動を展開している。年1回発行の紀要のほかにも、幼児教育科には『幼児教育研究所紀要』もあり、平成16年度、平成17年度ともに3件の科学研究費補助金の申請もなされており、教員の研究活動状況は良好である。

個人研究費、研究成果発表の機会（紀要）、個人研究室、研究時間のいずれも適切に確保・整備され、研究活動の活性化のための条件整備は適切である。

全教員が各種の研究活動を何らかの形で展開している。研究業績の種類と数に限れば、個々の教員によって大きな差があるが、この原因は各教員の専門分野の関係と推察できる。紀要も毎年発行され、過去2年間の科学研究費補助金の申請では採択されていないものの、それ以前には採択された研究もあり、全体的に教員の研究活動状況は良好である。また研究活動の活性化のための各種の条件も適切に整備されている。

#### 評価領域 社会的活動

社会的活動を、短期大学または教職員に求められた社会的使命、人間的使命と捉えて積極的に推進している。公開講座、生涯学習授業で過去3ヶ年間の実績は各年12講座から16講座を開催している。また平成16年度より「杉並区と区内高等教育機関との連携協働推進協議会」に加盟し、教育・文化・まちづくりなどの分野で相互に連携し、地域社会の発展と人材育成を目的に活動している。

奉仕の精神を尊ぶキリスト教教育の短期大学であることから、ボランティア活動を活発に推進しており、またその歴史も長い。老人ホームや児童施設での人形劇上演をはじめ、身体障害者および老人福祉施設での「ボランティア・キャンプ」、フィリピン・ケソン市の幼児教育施設でのフィールド・ワークを中心とした「国際交流キャンプ」など様々なボランティア活動に取り組んでいる。

留学生の受け入れについては、その数は多くはないが派遣については、アメリカ、オーストラリア、フィリピンに提携大学を擁し、英語研修やボランティア体験研修などで多くの学生を派遣している。

国際交流がやや一方通行の交流になりがちである点は否めないが、研修先がアメリカだけでなく平成16年度からはオーストラリア、フィリピンが加わり、派遣先や派遣人数の拡大が見て取れる。このことは短期大学が国際交流に積極的に取り組んでいる証左であると理解できる。

#### 評価領域 管理運営

学校法人の管理運営について、理事長は理事会と教授会の信頼関係を損なうことなくリーダーシップを発揮している。理事会、評議員会、監事の職務は寄附行為ならびに法令の定めに基づき適切に運営されている。短期大学の運営については、学長は教育研究上の改革・改善事項について、各委員会・部会・協議会へ検討を指示し、その結果を教授会などへ諮り、審議の上、決定するシステムを通じてリーダーシップを発揮している。また、教授会ならびに各種委員会なども規程に基づき適切に運営されている。

短期大学の事務部門においては各担当部課や教員との連絡を密にすることにより、学生に対し状況に応じたきめ細やかな対応がなされている。また、諸規程の整備や業務全体も適切に行なわれていると同時に、職員の能力向上のための研修なども積極的に行われている。

人事管理関係の規程などはよく整備されている。しかし、就業環境の改善や、教学と事務部門との人的交流などが望まれる。

施設設備の維持管理については、各規程に基づき適正に行われており、防犯防災対策についても、避難訓練、キャンパス内の警備委託や防犯カメラの設置など適切な対応がなされている。また、コンピュータセキュリティの対応や省エネ・省資源化についても学院全体で改革、努力しており評価できる。

#### 評価領域 財務

中・長期財務計画については財務担当理事を中心に現在策定中であるが、将来に備えて目的別の引当特定資産に対する計画が望まれる。毎年度の事業計画、予算の作成・執行・管理は適切に行なわれ、決算報告、監事、公認会計士による監査なども適正に処理されている。また、財務情報の公開についても適切に行なわれている。

短期大学の資金収支・消費収支ともに均衡を保ち、教育研究用の施設設備費や図書費なども適切に配分され、財務比率も全国短期大学、法人と比較して安定したものとなっている。また、法人全体の財務状況については、負債償還計画が確立され、学生数・生徒数とも安定したものとなっており、財務状況は健全に推移している。

#### 評価領域 改革・改善

第三者評価委員会が設置され、定期的にはないが、自己点検・評価は行われている。法人として評価すれば、改革・改善のための努力は顕著であるが、短期大学単体として評価すれば、やや弱い。相互評価などの外部評価は行われていない。

問題点として取上げるほどの難点ではないが、自己点検・評価の定着化が望まれる。